



2013 年 10 月 第 11 巻第 10 号

かく語りきー聖人の言葉

「君自らの内部から光を放たねばならない。君に教えられる人、君を霊性ある人間に変えてくれる人はいないのだ。君自らの魂こそが唯一の師である」

(スワミー・ヴィヴェーカーナンダ)

「実在は理解の目があって初めて経験できるのであり、学者だから経験できるというわけではない。月の姿は我が目で見なければならぬ。一体どうやって誰かに代わりにやってもらおうというのだ」

(シュリー・シャンカラ)

今月の目次

- ・ かく語りきー聖人の言葉
- ・ 2013 年 12 月の予定
- ・ 2013 年 8 月の逗子例会 シュリー・クリシュナ生誕祝賀会
「シュリー・クリシュナの神聖な性質」 スワミー・メーダサーナンダによる講話

・ ナマステ・インディア 2013 にて日印交流特別展示会を開催

・ スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年記念祝賀会、マニラで開催

・ 忘れられない物語

・ 今月の思想

12 月の予定

・ 生誕日・

スワミー・プレマーナンダ

12 月 11 日 (水)

ホーリー・マザー シュリー・サーラ

ダー・デーヴィー 12 月 24 日 (火)

クリスマス・イブ 12 月 24 日 (火)

スワミー・シヴァーナンダ

12 月 28 日 (土)

・ 行事・

12 月 7 日

東京・インド大使館例会

14:00～16:00

講演：バガヴァッド・ギーター (無料)

場所：インド大使館 : 03-3262-2391

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

12月1日、8日、15日

ハタ・ヨーガ・クラス 14:00～15:30

場所：新館アネックス

*体験レッスンもできます。

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

12月4日

シヴァーナンダ・ヨーガ東京センター

講話 17:00

詳細：<http://www.sivananda.jp/>

12月15日

逗子例会 10:30～16:30

場所：本館

講話テーマ：宗教は悟り Religion is Realization

朗誦・輪読・講話・賛歌など

12月24日

<クリスマス礼拝>

19:00～21:00

場所：逗子協会本館

<プログラム>

17:30 p.m. 夕拝

19:00 p.m. 礼拝、聖書朗読、キャロル、瞑想

19:40 p.m. 講話

20:40 p.m. 夕食（プラサード）

*12月のホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活動はお休みです。

2013年8月の逗子例会 シュリー・クリシュナ生誕祝賀会 シュリー・クリシュナの神聖な性質

2013年8月18日（日）、逗子本館での月例会にてシュリー・クリシュナの生誕祝賀会を執り行いました。午前10時30分、本館2階の礼拝室に参加者が集まり始めた頃、スワミー・メーダサーナンダ（マハーラージ）は祭壇に飾られた花や供物を整えて最終確認を終えました。そしてマハーラージは祈りの言葉を唱えて香をたき、床にひれ伏して祭壇にお辞儀をすると、少しの間座って皆と一緒に静かに瞑想しました。続いて『バガヴァッド・ギーター』の本と賛歌集が参加者に配られ、皆でヴェーダの平和のマントラを唱え、『ギーター』をサンスクリットと日本語で読み、クリシュナへのバジヤンを歌いました。そして、マハーラージが以下の講話を行いました。

「なぜ神様が宇宙を創ったのか、『ウパニシャッド』の中に面白い理論があります。絶対の真理である神様は唯一の存在ですが、一人では寂しいし遊ぶこともできません。遊ぶには様々な生き物やいろいろな物が必要です。そこで神様は宇宙を創造されたのです。これは「遊びのセオリー（theory of play）」または「リラー（Lila）」と呼ばれており、ヒンドゥー教独特の考え方と言えるでしょう。

神様は、形のないこともあれば形のあることもあります。形のないのは、絶対の真理ブラフマンです。形があるときは、特別な場所に住んでいらっしやいます。それが天国です。天国には、クリシュナの天国 (Krishna-loka)、イエスの天国 (Jesus-loka)、お釈迦様の天国 (Buddha-loka) など様々な天国があり、そこでは悟りを得た高潔な人々が一緒に暮らしています。

私たちの世界では人の性質は様々です。ふざけるのが好きな人もいれば、信仰心のない人もいます。神様は人の姿を取ってこの世界にやって来て、いろいろな人と様々な遊びを楽しむのです。

『バガヴァッド・ギーター』の中に、次のような大変有名な二節があります。「無宗教の者、非道德的な者が増えたとき、私（神）は生まれ、宗教の教えを説く。また、悪者を殺し私の信者を守り導くために、私は生まれる」しかし、ここでは遊びについて触れられていません。一方、『バーガヴァタム』には神様の遊びについて書かれています。遊びは、神様がこの世界に生まれてくる大きな理由の一つです。いつも天国にいてはあまり面白くありませんから、この世界に来て、信者と共に歌ったり踊ったり話したりし、神様を信じていない人を信仰へと導き、信仰の浅い人

を信仰の深い人に変えるのです。これが、神の化身がこの世界に生まれてくる理由です。

ヒンドゥー教において、シュリー・クリシュナは神様の十の化身の一人とされていますが、神様の化身には二四あるとか、化身は無限にあるとか解釈されることもあります。これまでの神様の化身の中で、シュリー・クリシュナはヒンドゥー教徒に最も人気があります。

なぜでしょうか。クリシュナの生涯は大変ドラマティックで面白く、幼少期から亡くなるまで様々な興味深いエピソードがあるので、皆シュリー・クリシュナの物語を読むのが大好きなのです。

いくつかクリシュナのエピソードをお話ししましょう。クリシュナは牢屋で生まれました。自分の命を狙う悪王カンサから逃れるために、クリシュナは牢屋にいる父ヴァスデーヴァに対し、ゴークルにいる王ナンダと王妃ヤショーダーの間に生まれた女の子と自分をすり替えるように指示しました。すると、ヴァスデーヴァをつないでいる鎖がほどけて看守が居眠りを始め、牢屋の扉が開きました。激しく降る雨のためヤムナー河は水位が大変高く、ヴァスデーヴァはクリシュナの身をどうやって守ろうかと心配しましたが、突然、

たくさんの頭を持つヘビが現れて首をフードのように大きく広げ、赤ん坊のクリシュナを雨から守ったのです。このように、クリシュナは使命を担った聖なる存在ですから、ただ願うだけで自然や生物が助けに来てくれるのです。そしてヤムナー河の水が割れて、ヴァスデーヴァらは河を歩いて渡ることができました。ヴァスデーヴァは赤ん坊を交換すると、ヤショーダーの産んだ赤ん坊を連れて牢に戻りました。こうして見てみると、シュリー・クリシュナの物語は生まれたときから実に興味深いことが分かります。そしてこのようなエピソードがとてもたくさんあり、何度聞いても決して飽きません。

また、シュリー・クリシュナには様々な面があり、多才です。例えば、クリシュナはあらゆる聖典を知っており、哲学者です。『バガヴァッド・ギーター』や『バーガヴァタム』にはクリシュナの深い霊的な教えが書かれており、これらを読めばクリシュナが哲学者として実に偉大であることは疑いようもないことが分かります。クリシュナには、神性が最も大きく現れていました。また、偉大な戦士でもあり、『マハーバーラタ』を読むと偉大な政治家であることも分かります。さらに、愛情深い息子、師らを敬う賢い生徒、思いやりのある兄弟、優しい友人、溢れる愛を持つ夫でもありました。そして、偉大な師でもありました。理想主義者であり

ながら、現実の問題を巧みに解決できました。

再び『マハーバーラタ』の話となりますが、これを読むとクリシュナの実践的な知恵の素晴らしさに驚きます。クリシュナのおかげで、パーンダヴァ一族はクルクシェートラの戦いに勝利します。クリシュナは偉大な戦士でしたが自らは戦わず、パーンダヴァ一族に助言を与えて導いただけでした。クリシュナの性格には正反対の面もたくさん見られます。例えば、ついさっきまで普通の人間だったかと思うと、突然神性が現れるのです。この点はシュリー・ラーマクリシュナの生涯にも共通して見られるもので、信者が困惑するところです。シュリー・クリシュナは大変優しく、同時に大変厳しい方でした。「花のように柔らかく、雷のように力強い」方でした。

クリシュナは友達を大変愛していましたが、いつ何時でも執着を捨てることができました。ある瞬間非常に愛着を感じていても、次の習慣には気持ちを切り離すことができたのです。クリシュナに、愛情と無執着の素晴らしいコンビネーションを見ることができます。私たちは人や物に愛着を強く持つと手放せなくなりがちですが、これは問題です。一方、僧侶の中にはただ冷淡かつ無執着で何の感情も見せない人がいますが、これは理想とは言えませ

ん。望ましいのは、愛情と無執着を意のままに切り換えられることで、シュリー・クリシュナにはこれができたのです。またクリシュナは、ある瞬間は大いにふざけていても、次の瞬間にはとても真面目になります。こうした正反対のように見える性質を備えていたことが、シュリー・クリシュナ独特の個性であり、面白くて惹きつけられる点です。

お釈迦様には詳しい伝記がありませんが、仏像を見ると概して真面目な性格が想像されます。もちろん、お釈迦様は慈悲深く優しいお方ですが、楽しく遊んでいる物語はまったくありません。ラーマチャンドラにも楽しい面はあまり見られません。キリストの場合もそうです。これに比べて、シュリー・クリシュナには楽しい面がたくさんあります。真面目なだけの人はずつまらないですし、楽しさだけを求める人は浅薄なことがあります。

ヴィヴェーカーナンダにも楽しい面と真面目な面の両方の性質がありましたし、その師のシュリー・ラーマクリシュナもそうでした。さっきまで信者らと冗談を言っていたかと思うと、急にサマーディに没入し、信者らは皆静まり、周囲は針の音が聞こえるかと思うほど静かになるのです。そしてラーマクリシュナが通常意識に降りてくると、再び神様の歌や踊り、話でその場

が賑やかになるのです。

シュリー・クリシュナはまた、様々な霊的理想を体現していました。信仰の実践においては、いろいろな形の霊的理想があります。例えば、神様を我が子のように愛する形です。私たちは子供を愛していますから、同じ態度で神様を愛することができます。信者の中にはクリシュナを赤ん坊と見なして礼拝する人がいます。また、神様に対するのと同じ態度で我が子に接することもできます。子供の世話をするときに、本当は神様のお世話をしているのだと考えるのです。我が子やすべての子供の中にクリシュナを見てください。これも霊的悟りを得る方法の一つです。

クリシュナを兄弟と見なしたり、友人と見なしたりして神様を礼拝することもできます。クリシュナの物語の中に、男の子の友達がたくさん出てきますが、クリシュナを親友と見なして神様を礼拝する面が表れています。また、クリシュナを師と見なして神様を礼拝することもできます。『ラーマーヤナ』にハヌマーンとラーマの物語がありますが、この関係がそれにあたります。『バガヴァッド・ギーター』では、アルジュナはクリシュナが単なる友人ではなく師であると理解しています。

クリシュナを恋人と見なすこともできますが、これは極めて高次の理想で、

難しい道です。ですから、肉体意識が全くなく真に純粹とならない限り、この道を選ばない方がよいでしょう。クリシュナの物語に、クリシュナに夢中になっているゴピー（乳搾り女）らが出てきます。皆、夫や家族がいるのですが、クリシュナを神と見なして深く敬愛しているのです。これを婚外恋愛だと思われてしまうことがあるのですが、本当は極めて純粹なものなのです。ゴピーらのクリシュナへの愛には肉体意識も肉欲も全くありません。だから、クリシュナを恋人と見なして神を礼拝することができたのです。

このようにシュリー・クリシュナは、信者が神様を人間と見なした場合の様々な関係を体現していました。一方、その生涯の物語には、神性を最も体現した面も記述されています。

シュリー・クリシュナがどれほど多くの人々に今なお影響を与えているか、例えば『バガヴァッド・ギーター』を考えてみただけでも分かります。『ギーター』は世界中の諸言語で出版されており、日本語だけでも翻訳版が6～7種類あります。『ギーター』は19世紀まではインドにしかありませんでしたが、英語に翻訳されてからシュリー・クリシュナが世界中で知られるようになりました。中世にペルシャ語の翻訳版が出版され、そこからヨーロッパの数か国語に翻訳されたものの、英語版が登

場したのはそのずっと後で、これはサンスクリットから直接翻訳されました。エマーソンやショーペンハウアーなど数多くの欧米の哲学者が『ギーター』の影響を受けました。

あるとき僧侶がスワミー・サラダーナンダジに、「なぜ『バガヴァッド・ギーター』がこんなにも高く評価されるのでしょうか」と尋ねました。サラダーナンダジが「他に『ギーター』のような聖典があれば、挙げてみなさい」と言うと、僧侶は答えられませんでした。聖典はどれもみな大変重要ですが、『ギーター』は、普遍性、合理性、霊性が非常に高く、調和の精神に貫かれているという点で特別です。三千年近く前に編纂されたのに、その内容には現代においても通じるものがあり、非常に人気があるというのはすごいことではないでしょうか。

では、シュリー・クリシュナの人間的な面と神的な面とが表れている物語をいくつかお話ししましょう。皆さんも自分で『ギーター』や『バーガヴァタム』を読んでみてください。この2冊は大変重要で、皆さんの人生を豊かにしてくれるでしょう。

シュリー・クリシュナの肌は青か黒で描かれています。が、「クリシュナ」という言葉は実は「黒」という意味です。しかし青い肌で描かれることも多いの

です。この理由は、青も黒も無限を表す色だからです。空は青いですね。海の色は深いところだと青にも黒にも見えます。このように、この 2 色は自然界の相対的な無限を表す色なのです。しかし、空に近づくと色がなく、海の水を手にくくと色がなくなることが分かります。神様には色という有限性の面を持つ一方、無限でもあるのです。同様に、クリシュナはある面では形がありますが、クリシュナに近づいていきクリシュナ意識に合一すると形がないことが分かります。

「信者のハートを耕す者はクリシュナである」という言葉がありますが、「耕す」ことで何が収穫できるのでしょうか。信仰心、純粋さ、親切心、愛などです。クリシュナが私たちのハートを耕すと、これらが育ちます。ブッダやキリスト、シュリー・ラーマクリシュナの場合と同様です。これはクリシュナの神性の象徴です。

さてお話をしましょう。クリシュナは大変ないたずらっ子でした。私はよくお子さんのいる方から、子供のいたずらに手を焼いていると聞きますが、クリシュナの幼少時代の物語を読めば、自分の子供ははるかにおとなしい子だと思ってしまうでしょう。クリシュナの育った地方には、乳搾り女や牛飼いがたくさん住んでいて、バターやクリーム、ヨーグルト、バターミルク、様々なお菓

子などを作っていました。クリシュナの両親は裕福で、食べ物や乳製品に事欠くことはありませんでしたが、クリシュナはそれで満足しませんでした。友達と一緒に出かけては、近所の家からバターなどを盗み、サルに与えたりしていました。最後には、器まで壊してしまったのです。村の女性たちは、クリシュナの母・ヤショーダーのところにしょっちゅう文句を言いに来ました。「クリシュナをちゃんと監督してちょうだい。言うことを聞かないなら、縛ったらどうなの」

当然ヤショーダーは怒り、幼いクリシュナを叱りました。「どうしてご近所から盗むの？うちにはたくさんあるでしょう？ご近所の壺まで壊すなんて！」クリシュナは、自分はやっていない、近所の人は自分を嫌っているから作り話をしているんだと答えました。あまりに腹が立ったヤショーダーは、クリシュナを縄で縛ろうとしますが、何度やってみてもその度に縄の長さが足りず、もっと長い縄が必要でした。どれほど縄の長さを足しても、わずかに短くて縛れないのです。ヤショーダーが疲れ果てているのを見て、クリシュナは、いたずらっぽい笑みを浮かべながら、自分から縛られたのです。この話の裏にあるのは、クリシュナの無限性です。無限な存在を縛ることなど誰にできるのでしょうか。ヤショーダーがいくら縄を足しても、クリシュナを縛る

ことはできないのです。そのことに憐れみを感じ、無限のクリシュナは自ら有限になったのです。神の化身の中には、有限と無限の二面が見られます。神の面、人間の面がさっと入れ替わるのです。

幼子クリシュナは裕福で食べ物に困っていませんでしたが、土を口に入れることがよくありました。これを見てヤショードーは、口の汚れを拭おうとしましたが、クリシュナは抵抗し、口を開けてヤショードーに泥を取らせませんでした。ヤショードーが無理矢理クリシュナに口を開けさせると、口の中に全宇宙が見えました。しかも、自分がその中にいるのも見えたのです。ヤショードーは大変驚きましたが、次の瞬間、クリシュナは普通の子供に戻りました。シュリー・クリシュナは神様ですから、全宇宙が口の中にあるのです。私たちは宇宙の中におり、宇宙は私たちの中にいません。クリシュナの場合は、自身が宇宙の中にいながら宇宙もクリシュナの中にあつたのです。

ナマステ・インディア 2013 にて日印交流特別展示会を開催

9月28日（土）～29日（日）、毎年恒例のインド・フェスティバル ナマステ・インディアが東京・代々木公園で開催されました。協会では、スワームー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周

年記念年間祝賀行事の一環として、在東京インド大使館のご協力の下、日印交流特別展示会を開き、日印交流やスワームー、岡倉天心についての展示を行いました。また、在日印度商工会議所理事長およびサティアサイ教育協会理事長であられる比良竜虎氏からも展示会にご支援をいただきました。

主な展示物は、日印交流史および近代交流の先駆者であるスワームーと美術評論家・岡倉天心の史料写真、ポスターと写真によるスワームーの生涯の説明、スピーチでスワームーに言及した世界の著名人・政治的指導者についての展示、世界の諸言語で出版されているスワームーの著書やスワームーに関する本などでした。ほとんどの展示物には、英日二か国語の解説が添えられました。



初日のテープカットは、大変光栄にも森喜朗元首相とインド大使ディーパ・ゴパラン・ワドゥワ閣下にしていただきました。また、森元首相には、協会が新たに発行したスワームーに関する

る DVD もご披露いただきました。展示会では見学者の方全員に、インスピレーションに富むスワミーのメッセージをまとめた小冊子、協会の出版物のカタログ、協会の連絡先の入った封筒を差し上げました。



来訪者約二千名のうち、岡倉天心の名前を知っているという方は多かったのですが、スワミーの名は初めて聞いたという方がほとんどでした。しかし、スワミーの生涯やメッセージに感動したという方も多く、展示会出口での簡単なアンケートでは、ユニークなテーマの展示に驚いたという方もいらっしゃいました。また、オーストリア大使のベルンハルド・ツィムブルグ博士ご夫妻など、ご高名な方々も来場されました。

ナマステ・インドゥアへの出展では、展示会開催中のみならず準備や後片付けなど様々な作業に多くの信者の方々のお力をお借りしました。特に、中心となった方々には毎日のようにかなりの距離を移動してお手伝いいただきました。展示物の収集、デザイン、翻訳、

設置は大変な作業であり、展示会の成功は多くの方々のご尽力の賜です。また、協会では書籍などを販売する「ガンガー・ブックストア」も別のエリアに出店していましたが、こちらではさらに多くのボランティアの方々にお手伝いいただきました。皆様に心より御礼申し上げます。

また、インド・グジャラートのラーマクリシュナ・ミッション・ラジコット (Ramakrishna Mission Rajkot) には、展示用のスワミーのポスターを作成・送付いただくという大きなご支援を賜りました。さらに、ベルル・マトのスワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年記念祝賀本部や世界各地のラーマクリシュナ・マト・アンド・ミッション支部にも、世界の諸言語で出版されたスワミーに関する本を送っていただきました。おかげで大変国際色豊かな展示となりました。

NHK の海外向けラジオ放送では、この展示会についてヒンディー語の番組が制作され、番組内でマハーラージのインタビューが放送されました。





their surprise at learning the unique theme of the exhibit in a short questionnaire on visitor impressions requested at the exit. The Austrian Ambassador, Dr. Bernhard Zimburg, and his wife were also among the distinguished guests who visited.



Volunteers awaiting arrival of Prime Minister Mori



Lots of activity at the Ganga Bookstore

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年記念祝賀会、マニラで開催

9 月 11 日（水）～16 日（月）、スワミー・メーダサーナンダはマニラを訪問し、フィリピン・ラーマクリシュナ・ヴェーダーンタ・ソサエティ（The Ramakrishna Vedanta Society of the Philippines）が開催したスワミー・

ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年記念祝賀会に参加しました。



11 日、成田から到着したマハーラージを、プシュパ・ガングリさんがお出迎えくださりソサエティ本部までお連れくださいました。マハーラージはすぐに仕事に取りかかり、カルロ・コロンボさんやアーナンド・チップルンカーンさんに祝賀会の詳細な内容について確認しました。

12 日、昼食を取るとただちに、マハーラージは前日から開催中のマニラ・インターナショナル・ブック・フェアに行きました。フィリピン・ソサエティでは、この書籍展示会にラーマクリシュナ僧団の本を出品していました。その後マハーラージは、教員を引退されたナナイ・フロールさんや地元の信者さんらと共にソサエティ本部に戻り

ました。13 日は特に予定はなく、マハーラージはソサエティで時間を過ごした後、マレーシアから到着された、インド・マヤヴァーティのアドヴァイタ・アシュラマの前プレジデントで、ラーマクリシュナ・マト・アンド・ミッション評議員会の現委員であられるスワミー・ボドサラーナンダ (Swami Bodhasarananda) をお迎えしました。

14 日午前、マハーラージは、アーリンさん、オイエットさん、アブラさん、リタさん、アナンドさん、アパルナさん、カルロさん、エンリコさん、モイゼスさん、ニルマルさん、プシュパさん、ラジャットさん、シャンタヌさん、ソマさんなどの信者さんらと一緒に綿密なりハーサルをもう一度行いました。

14 日、メトロ・マニラのビジネス地区マカティの中心部にある劇場で祝賀会が開催され、約 4 百名が来場しました。マハーラージは、ボドサラーナンダジーと共に聖句を詠唱し、ベルル・マトのプレジデント・マハーラージからフィリピン・ソサエティに贈られた祝辞を読み上げました。続いて、ボドサラーナンダジー、フィデル・V・ラモス元大統領閣下、駐フィリピン・インド大使 アミット・ダスグプタ閣下からそれぞれスピーチをいただきました。その後、インドの古典舞踊「アールパナ」を、UP フィリピンアナ・ダンス・カンパニー (UP Filipiniana Dance

Company) とナッティヤ・マンダラさんがスワミーに献上する踊りとしてご披露なさいました。また、会場ではラーマクリシュナ僧団に関する書籍も販売されました。

15 日にはフィリピン・ソサエティがあるホースシューの地域で祝賀会が行われました。午前中、この地域に住む百の貧困家庭に、マハーラージとボドサラーナンダジーから無料のお米と野菜が手渡されました。午後にはソサエティで特別プログラムが開催され、フィリピン人信者による古典舞踊の披露と、ボドサラーナンダジーによる講話「世俗の生活と霊的生活の融合」がありました。

マハーラージの滞在中は、午前 6 時 30 分からヴェーダの聖句詠唱、『バガヴァッド・ギーター』の輪読と解説、瞑想が行われました。その後マハーラージは、朝拝の参加者と共に朝食を召し上がりました。夕拝は午後 7 時 30 分から、『ラーマクリシュナの福音』の輪読と解説、瞑想が行われました。夕食は、プシュパさん、アパルナさん、ソマさん、カストゥリさん、マンジュシャさんらを始めとする女性信者の方々が心を込めて準備をしてくださり、マハーラージはおいしい食事を信者の皆さんと共に楽しみました。



16 日午前、マハーラージは空港までニルマルさんとプシュパさんに送っていただき、東京へ戻られました。



忘れられない物語

愛着と無執着

白隠禅師（1686～1769）は、他の禅師に学ぼうと諸国を行脚した。32 歳の時、故郷の町・駿河国原宿（現在の静岡県

沼津市原)にある松蔭寺に戻り、後輩の修行僧らの指導に専念した。地元の人々から、生き方の手本となる師として仰がれた。

白隠の近所に食料品の商いをする家族がおり、この家に美しい娘がいた。ある日、両親は娘が身ごもっていることに気付いた。

両親は激怒したが、娘は父親が誰だか言おうとしなかった。しかし、あまりの叱責に耐えかねて、娘は白隠の名を挙げた。怒った両親は白隠のところに飛んでいき、弟子らの前で彼を激しく非難した。しかし、白隠はただこう答えただけだった。「そうなのですか」

やがて男の子が生まれ、子供は白隠に預けられた。この頃までに白隠の評判は地に落ち、弟子らも白隠の元を去っていた。しかし、白隠は少しも気に留めず、赤ん坊の世話を楽しんでいた。近所の人々から、乳など、子育てに必要な物をもらっていた。

一年後、赤ん坊の母親である娘は耐えきれなくなり、両親に真実を告げた。本当の父親は白隠ではなく、地元の魚市場で働く若者だった。

両親は慌てて白隠のところに駆けつけて許しを乞い、どうか子供を返してくださいと懇願した。

白隠は男の子を我が子のように愛していたが、快諾し、子供を手渡してこう言った。「そうなのですか」

今月の思想

「深い生き方をしている人たちに、死の恐怖はない」

(アナイス・ニン)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp